

12月18日（火）

メルボルン市長表敬訪問



メルボルン市役所職員の案内で、車では通れない街区内の通路を通り抜け、朝早くからにぎわう街の様子を観察しながら徒歩で宿泊ホテルからメルボルン市役所へ移動した。

市役所到着後、まずサリー・キャップ市長より御挨拶をいただき、続いて吉村市長、辻市会副議長からそれぞれ挨拶を行った。

【サリー・キャップ市長 挨拶要旨】

本年3月のメルボルン市議一行が大阪市を訪問した際に御堂筋とスワンストリート、姉妹ストリートの姉妹ストリート提携が結ばれた。9月にはロブ・アダムズ・メルボルン市都市デザイン課長が大阪市を訪問した。今回こうして大阪市代表団一行をメルボルンにお迎えできることは喜ばしい。

大阪観光プロモーションのため今回来訪された観光関係の皆様及び大阪市立大学からの出張者2名についても歓迎したい。

このたびの訪問中には、姉妹ストリート提携記念セレモニー、姉妹都市提携40周年記念フォーラム、認知症に係るロイヤルメルボルン病院と大阪市立大学とのMOU締結等が予定されており、今回の大阪市御一行による訪問が2025年大阪万博に向けた大阪・メルボルンによる今後の協力関係の基礎固めとなることを期待している。

両市長による交流のみではなく、両市に所在するさまざまな企業・団体及び代表団による交流こそが、大阪・メルボルン姉妹都市関係をさらに活性化していくうえで必要不可欠である。

大阪市におけるG20サミット及び2025年大阪万博の開催に祝意を表するとともに、また40年後に今回同様大阪・メルボルン姉妹都市提携80周年をお祝いできることを祈念している。



【吉村市長 挨拶要旨】

サリー・キャップ市長並びにメルボルン市議会議員の皆様、御臨席の皆様、このたびは大変温かい歓迎をしていただき、また昨夜は心のこもった夕食会を開催いただき、

心より感謝申しあげる。大阪とメルボルンの姉妹都市提携 40 周年を記念してメルボルンを訪問することができ、非常にうれしく、また光栄に思う。

本年 3 月にケビン・ルーイ市議会議員を団長とするメルボルン市代表団に大阪を訪問していただき、姉妹ストリート協定の締結等、新たな分野での交流を開始することができた。また、民間においても、40 周年を記念して、ヨットレースの開催や写真学校相互の写真展の開催等、さまざまな行事が開催されました。



また、本日午後には姉妹都市提携 40 周年記念フォーラムを開催する。フォーラムにおいては、魅力ある都市の取り組みを共有させていただき、ともに「世界で最も住みやすい都市」をめざしていきたいと考えている。その他、今回はライフサイエンス分野の交流として、医療・ヘルスケア関連企業の商談会開催や、大阪市立大学医学部とロイヤルメルボルン病院のMOU締結を予定している。更に連携が進んでいくものと期待している。

2025 年大阪万博には、ぜひメルボルンからも多くの方々にお越しいただきたい。それに先立つ 2023 年にはメルボルン・大阪ダブルハンドヨットレースが予定されており、両市の絆を深めることに貢献すると思う。

ヨットレースについて、サリー・キャップ市長にひとつ提案させていただきたい。2025 年大阪万博は大阪ベイエリアにある夢洲で開催される。大阪万博開催への機運を盛り上げ、また姉妹都市関係をさらに促進する観点から、夢洲を次回ヨットレースのゴールとして活用したい。本年のヨットレースは大阪港開港 150 周年を記念して実施されたが、次回 2023 年の開催も決定していることから、ぜひ検討していきたい。

メルボルン・大阪両市が隔年で実施している学生派遣交流事業に対するメルボルン市の御支援にも感謝する。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

大阪・メルボルン姉妹都市提携 40 周年をメルボルンで共にお祝いするため、お招きいただいたことを心から感謝する。また、本日はサリー・キャップ市長、メルボルン市議会議員の皆様、御臨席の皆様には私どもを暖かくお迎えいただき心からお礼申し上げます。

姉妹都市提携 40 周年という節目を迎えるにあたり、私たちはこれまでの交流の成果を、



その意義とともに改めてここに確認するとともに、新たな時代に向けて両都市の絆が今まで以上に緊密なものとなり、友好関係がより一層発展することを祈念する。

本日は姉妹ストリート提携記念式典や姉妹都市提携 40 周年記念フォーラムが予定されており、両都市のさらなる交流に寄与できることを誇りに思う。

スワンストンストリートは歩行者天国となっていると承知している。吉村市長も御堂筋を将来的に歩行者天国とする構想をお持ちであり、「先輩」であるスワンストンストリートの経験に学びたい。

明日には、ロイヤルメルボルン病院と大阪市立大学による認知症に関するMOUが締結されるが、日本では高齢化が大きな社会問題となっており、認知症対策は喫緊の課題である。また、同じく明日 I R に関する視察が予定されているが、大阪市における将来的な I R 導入を見据え、ギャンブル依存症対策に対するメルボルンの先進的な取り組み事例を参考にしたい。

メルボルン市のますますの発展と、大阪市とメルボルン市のさらなる関係強化を祈念する。

続いて、「世界で最も住みやすい姉妹都市の共同宣言 2018」にキャップ市長、吉村市長がそれぞれ署名したのち、記念品の交換を行い、表敬訪問は終了した。



共同宣言の署名



記念品の交換（ケビン・ルーイ議員と）

姉妹ストリート記念セレモニー 及び スワンストンストリート等視察

本年 3 月に御堂筋と姉妹ストリート協定を締結したスワンストンストリートを視察した。スワンストンストリートは幅員約 30m、延長約 1.2Km のメルボルン市のメインストリートであり、自動車優先から歩行者優先の街路へと転換が行われ、現在では一般自動車交通を排除し、歩行者、トラム、自転車だけで構成する道路へと道路空

間再編が完了している。

締結した協定の主な内容は、以下の分野において友好的に双方の協力を促進することである。

- ・ 人中心の道づくりに向けた道路空間再編の分野における技術交流、情報交換、情報発信
- ・ 官民連携・パブリックスペースを活用した賑わい創出などの分野における技術交流、情報交換、情報発信
- ・ 観光や新技術活用の分野における道路に関連させた施策連携

最初に両市のメインストリートである御堂筋とスワンストンストリートの姉妹ストリート提携を記念するセレモニーとして、スワンストンストリートの歩道部分に設置された記念銘板の除幕式が行われた。除幕式にあたり、メルボルン市役所のデイヴィッド・リビングストン国際交流・市民サービス課長から御挨拶を頂いた。なお、御堂筋の歩道にも全く同じ記念銘板が設置されている。

【デイヴィッド・リビングストン課長 挨拶要旨】

メルボルン市と大阪市は非常に住みやすい都市である。30年前、この場所からメルボルン市の再開発がスタートした。今、私たちはメルボルン市の中心にいる。大阪市の方には御堂筋を思い起こしながら参加してほしい。この2つの大通りはその住みやすさの重要な役割を担っている。メルボルン市と大阪市が今後もより住みやすい市となっていくように協力し合いたい。それではサリー・キャップ市長と吉村市長から記念銘板の除幕式を行って頂きたい。



記念銘板の除幕式

その後、スワンストンストリートの他にバークストリート、エリザベスストリート、フリンダース・レーン（小路）、フリンダースストリート駅、フェデレーションスクエアを案内いただいた後、市役所に戻る際にはトラムに試乗し、視察を終了した。



各ストリートの視察



ジンジャーブレッド・ビレッジの大阪城（クッキー細工）
（フェデレーションスクエア内）

姉妹都市提携 40 周年記念フォーラム・セミナー

メルボルン市役所で開催された姉妹都市提携 40 周年記念フォーラムとセミナーに参加し、大阪の魅力を官民一体となって強力に発信するとともに、大阪への投資促進を図るための講演やプレゼンテーションを行った。本フォーラム・セミナーは世界の権威ある調査「世界で最も住みやすい都市 2018」のランキングで上位を占めるメルボルン市と大阪市のビジョンや取り組みを共有し、両市の都市魅力のさらなる向上を図ることを目的としている。

吉村市長から開催にあたっての挨拶、大阪のビジョンや取り組みについての講演の後、辻市会副議長からも大阪市民の目から見た大阪の魅力について講演を行った。

【吉村市長 挨拶要旨】

始めに、サリー・キャップ市長をはじめメルボルン市の皆様、松永一義在メルボルン日本国総領事には、日頃より大阪とメルボルンの姉妹都市交流を御支援いただくとともに、本日のセミナー開催にあたり、多大なる御協力をいただき、心より感謝申しあげる。大阪とメルボルンの姉妹都市提携 40 周年記念事業として、このセミナーを開催できることを大変喜ばしく思う。



近年、大阪にお越しいただくオーストラリアの方は急増しており、去年は 21 万人もの方にお越しいただいた。これは、3 年前に比べると約 2 倍の伸びである。

本日は、大阪観光の魅力や取り組みについてプレゼンテーションさせていただくとともに、大阪を代表する観光スポットとして、大阪の歴史文化を語る上で欠かせない「大阪城」、世界最大級の巨大水槽を持つ水族館「海遊館」、ワールドクラスのショーやアトラクションが満喫できるテーマパーク「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」の魅力についても紹介させていただく。

大阪にお越しになる際に、ぜひ本日紹介する観光スポットを訪れていただければと思っている。

最後に、本日このセミナーを機に、今後の大阪とメルボルンとの交流が一層進むことを祈念するとともに、御臨席の皆様の御健勝と御多幸をお祈り申しあげる。

【吉村市長 講演要旨】

姉妹都市提携 40 周年の記念すべき年に、メルボルン市においてプレゼンテーションを行えることはたいへん光栄である。

今回、メルボルンを初めて訪問したが、「世界で最も住みやすい都市ランキング」140 都市の中で毎年最上位を占め、大阪より上位である理由がよくわかった。活気ある街並み、スワンストンストリート、ヤラ川沿いの美しい景観など、本当に世界を代表する都市だと思う。しかし、大阪も現在、メルボルンに負けないような魅力ある都市づくりを進めている。

そこで今回は、大阪の取り組みを知っていただくとともに、メルボルンと今後協力していきたい。

吉村市長から、大阪及び関西の概要、大阪都心とベイエリアの再開発プロジェクト、御堂筋とスワンストンストリートとの姉妹ストリート協定の締結、大阪市立大学医学部とロイヤルメルボルン病院との連携協定の締結について説明した。

【辻市会副議長 講演要旨】

大阪とメルボルンの姉妹都市提携40周年の記念すべき年に、このようにプレゼンテーションを行えることを喜ばしく感じている。私からは地域をよく知る市民の立場を代表して、たくさんある大阪の魅力の中から3つに厳選して紹介する。

大阪では年間を通じて天神祭、御堂筋オータムパーティー、中之島文楽、大阪マラソンなど多彩なイベントが開催されている。



最初に紹介するのは、先程セレモニーが行われたスワンストンストリートと姉妹ストリート提携を結んでいる御堂筋で今まさに開催されている文化イベントである大阪・光の饗宴である。

大阪では毎年この時期、大阪のメインストリートである御堂筋と水都大阪のシンボル・中之島が光り輝く。全長約4kmある御堂筋は、街路樹にイルミネーションを施し、壮大な光の道になる。中之島は水辺に広がる光のアートフェスティバルとして、水都大阪のシンボルを彩る。中之島は大阪市役所の所在地であり、公園や文化施設の集積エリアでもある。加えて、大阪の各地域が個性あふれるプログラムを行い、まさに大阪が一体となって光のミュージアムの様相を呈する。昨年は約1,367万人が来場され、海外からも多くの方に来ていただいた。

二つ目に紹介するのは現在建設が進められており、新しいまちのシンボルとなる大阪中之島美術館である。

メルボルン市にはいくつもの素晴らしいミュージアムがあるが、大阪市においても、大阪市立美術館や東洋陶磁美術館など多くのミュージアムがある。2021年に開館を予定している大阪中之島美術館は「大阪と世界の近現代美術」をテーマとしたミュージアムであり、大阪に新たな魅力を創造し、市内の他のミュージアムとともに文化の振興や都市の魅力向上に貢献するものである。建築デザインは、黒い直方体が宙に浮いたような外観と、建物を切り欠くように配置された吹き抜け空間が特徴である。大阪中之島美術館では、19世紀後半から今日に至る日本と海外の貴重な美術作品、約5,600点をコレクションしている。

最後に紹介するのは大阪の魅力を語るうえで欠かせない「食」である。

日本では、多様で豊かな自然に恵まれており、自然を尊び、多様な食材そのものの



味わいを活かす食文化が育まれてきた。このような日本の伝統的な食文化である「和食」の原点になるのが「だし」である。西洋料理では肉や骨、香味野菜などを煮出してスープストックを作るのが一般的であるが、和食の「だし」は昆布や鰹節を煮出して作るスープストックである。実はこの「だし」は大阪で誕生したものである。

1800年代、大阪には日本全国からさまざまな物資が運び込まれ、多彩な食文化が育まれた。当時、北海道から「北前船」という船によって運ばれた良質な昆布が大阪の「だし文化」を生み出した。「だし」を使うことで、食材の持つ本来のうまみを引き出すことができる。「だし文化」は現在の大阪の食文化にもしっかりと受け継がれ、「だし」があるからこそ、大阪の食べ物は全ておいしくなる。そして、「だし」の美味しさを気軽に味わえるのが、「粉もん」と呼ばれる「たこ焼き」や「お好み焼き」である。どちらも小麦粉を「だし」で薄くのばした生地がベースになっていて、これが味の決め手になる。そのほかにも「だし」を美味しく味わえる食べ物が大阪にはたくさんある。例えば油揚げの入ったうどんである「きつねうどん」、うどんを使ったなべ料理である「うどんすき」やフグのなべ料理である「てっちり」などである。

ぜひ、大阪に来られた際は、「だし」のきいた大阪の食を楽しんで欲しい。

本日は、大阪の魅力を凝縮して説明させていただいた。このあと、2部のセミナーでは、さらに多くのお客の魅力を知っていただきたい。セミナー終了後のレセプションでは、大阪の「だし文化」を代表する料理であるうどんを用意しているので、御賞味いただき、大阪の魅力を堪能してほしい。

続いて、大阪プロモーションセミナーに移り、大阪観光局からのプレゼンテーションが行われ、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」のプレゼンテーション終了後、市会代表団はビクトリア州政府表敬訪問のため州議事堂へ移動した。ここで吉村市長と別れ、市長は帰国の途に就いた。

ビクトリア州政府表敬訪問

ビクトリア州議事堂到着後、まず州議会上院議員でもあるギャビン・ジェニングス特命州務大臣から御挨拶をいただき、続いて辻市会副議長から挨拶を行った。

【ギャビン・ジェニングス大臣 挨拶要旨】

大阪市代表团にお越しいただき感謝申し上げます。州政府の代表として皆様をお迎えしたいと思う。姉妹都市であることを誇らしく思うし、40周年記念ということで、長く続くこの関係をサポートしてきたことを非常にうれしく思う。メルボルン市と大阪市の関係に留まらず、ビクトリア州として、またオーストラリアとして、日本との関係は非常に密接である。



最近選挙が終わったばかりで、これから4年間勤務できるが、去年喜ばしいことに大阪を訪れることができ、田中副市長に歓迎頂いた。その時の私のように皆様にもメルボルン市を楽しんでいただければと思う。

大阪市の方から何が皆さんにとって重要なのか、何を见たいのか、何をしたいのか、私たちが何を望むのか、お互いどういったことができるのか、これからの会話の中で知りたいと思う。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

オーストラリアには初めて訪れたが、素晴らしい街だと実感した。本日は大臣におかれては御多忙の中お時間を頂き感謝申し上げます。

平素より、大阪市とメルボルン市の姉妹都市関係に御理解と御協力を賜り、大阪市民を代表して心からお礼申しあげる。



大阪市とメルボルン市は、姉妹都市関係に加え、姉妹港、ビジネスパートナー都市など、経済、文化、観光、教育などさまざまな分野における交流を深め、緊密な関係を構築している。とりわけ本年は姉妹都市提携40周年として、3月のメルボルン代表団の御来阪等さまざまな記念行事が行われている。

また、大臣におかれても本年7月に大阪市を訪問いただき、大阪市のごみ焼却施設を御視察いただいたと聞いている。リサイクル、クリーンエネルギーなどの課題については、我々の共通の課題でもあり、今後も共有できると考えている。

大阪市においては、先月パリで開催されたB I E総会において、2025年万国博覧会の開催が決定した。「いのち輝く未来社会のデザイン」をコンセプトに、世界の英知を結集し、さまざまな分野に新たなイノベーションをもたらすことが期待されているところである。ビクトリア州政府の最先端の取り組みをぜひとも学ばせていただき、万博を含め、大阪市の今後の施策の参考とさせていただければと考えている。

大阪市とメルボルン市、ビクトリア州の友好関係がますます深まることを祈念するとともに、ビクトリア州のますますの発展と大臣の御健勝、御多幸を祈念する。

【意見交換概要】

(ギャビン・ジェニングス大臣)

2025 年には私は大臣でいられるかどうかかわからないが、大阪にはまた訪れたい。私は大阪市が大好きで、大阪には、発展性のある知恵、テクノロジー、イノベーション、生命科学があり、自分たちだけのものではなく、世界に広めようという精神、それを万博その他に広げ、世界各国とコラボレーションして、大阪・メルボルンだけでなく、日本とオーストラリア、日本から世界に広げていく役割を果たす、さまざまな問題に対処していく心遣い、それが世界の平和と安全につながることに感動を感じる。

今回どういったことを期待してこちらに来られたのか教えてほしい。明日は病院でさまざまな医療施設を見られると思うが、どのようなコラボレーション、ビクトリア州にどのようなことを期待しているのか。

(辻市会副議長)

大阪万博の大きなテーマの一つに持続可能な社会を作る S D G s という考えがある。都市部についてはほぼ共通した課題があり、特に日本は高齢化社会が進展しており、少子高齢化で、人口減少社会に陥っている。そんな中、ビクトリア州、メルボルン市の皆様のお力を借りたいのが、医療の分野、I T の分野、それから I R の誘致が進もうとしているのでギャンブル依存症対策などである。さまざまな課題にビクトリア州、メルボルン市が果敢に挑んでおられると聞いているので、あらゆる分野で提携をしていきたいという志で参った。

(ギャビン・ジェニングス大臣)

ギャンブルについてお話ししたいが、お互いに理解しあわなければならない非常に重要なことである。ギャンブル業界に関わらず、あらゆる業界に善悪やリスクがあるが、それを規制、法律、ガイダンスなどでギャンブルにかかわる人達が自信をもってそれに対処していく状況を作る必要がある。私たちは継続的に 20 年間それをやってきた。規制と法律、そしてツーリズムとのバランスが非常に難しく、そのあたりを利用者、業界とうまくやっていく必要がある。そのため私たちは枠組みを作っているが、その枠組みを常に微調整していかなければならない。また利用者がどのようなことを期待しているのかもくみ上げる必要がある。

(多賀谷議員)

今朝、吉村市長からの依頼で 2023 年のメルボルン大阪ダブルハンドヨットレース

を万博のプレイベントとして位置付けることをメルボルン市長が快諾されたが、ビクトリア州としてヨットレースに関わっておられると思うので、ビクトリア州の応援もよろしくお願いいたします。

(ギャビン・ジェニングス大臣)

スポーツ大臣と共にどのようにサポートしていけばよいのか考え、メルボルン市とも協力する。

(柏木経済戦略局長)

2023 年のみならず 2025 年も大臣として大阪との交流を促進してほしい。行政機関の職員はあまり勉強しないというのが今まで問題となっていたが、世界の先行事例をしっかりと学び、それを継続して学び続けることを大切にすべく今回訪問させていただいた。

もう一つはプロモーションのために来た。万博は 2025 年に開催されるが、パビリオンに出たいという国、パビリオンを作りたいという企業、参加したいという人たちを集める必要がある。ビクトリア州政府にはオーストラリア全体の一つのムーブメント、盛り上げ役を担って頂きたいと考えており、万博を成功させる、理念の実現につながると考えている。

(ギャビン・ジェニングス大臣)

現在、残念ながら大阪からの直行便がない。ぜひとも万博に先立ち、大阪とメルボルンの直行便を設け、メルボルンから直接たくさんの方が訪れることができるようにしたい。

続いて記念品の交換を行い、表敬訪問を終了した。



意見交換の様子



記念品の交換（ジェニングス大臣と）

大阪市・大阪市会主催 ネットワーキングレセプション

まず主催者を代表して辻市会副議長より挨拶を行い、続いてサリー・キャップ市長、松永義一総領事からそれぞれ御挨拶をいただいた。

【辻市会副議長 挨拶要旨】

サリー・キャップ市長、松永義一総領事、またメルボルン市の皆様並びに御臨席の皆様、大阪市を代表して、本日このような場を持たれたことをお礼申し上げる。

大阪市とメルボルン市は姉妹都市関係に加え、姉妹港、ビジネスパートナー都市など、緊密な関係を構築している。とりわけ本年は、1978年に姉妹都市を提携してから40周年の大変記念すべき年である。その記念すべき年に、このようにたくさんの方にお越しいただくことができ心よりうれしく思う。

お集まりいただいた皆様にはこの機会に交流を深めていただき、メルボルン市と大阪市の関係強化、ビジネス交流の促進などにつなげていただきたい。

後ほど、大阪の食文化の要である「だし」を使った料理として大阪で一般的に食されている「うどん」をお出しするので味わっていただきたい。

大阪市においては、先月パリで開催されたB I E総会において、2025年万国博覧会の開催が決定した。「いのち輝く未来社会のデザイン」をコンセプトに、世界の英知を結集し、さまざまな分野に新たなイノベーションをもたらすことが期待されている。皆様には実際に大阪にお越しいただき、活力あふれるその姿を目の当たりにしていただきたい。そのためにもぜひ、大阪とメルボルンの直行便の実現を期待している。

フォーラム・セミナーの開催並びにこのレセプション開催にあたり、多大なる御尽力をいただいたメルボルン市をはじめとする関係者の皆様に重ねてお礼申し上げる。

メルボルン市と大阪市の交流がより一層深まるよう、また本日お集まりの皆様の御健勝、御多幸を祈念する。



【サリー・キャップ市長 挨拶要旨】

最初にメルボルン市を代表し、この土地の伝統的な所有者であるクーリンの人々及び過去と現在の長老に敬意を表します。辻市会副議長の大変熱意のこもった挨拶に感謝申し上げます。また、大阪市の皆様、メルボルン市議会の皆様、大阪市役所の皆様、メルボルン市役所の皆様の、さまざまな準備を含め献身的な努力に感謝している。松

永総領事には大変素晴らしい仕事をしていただいている。

姉妹都市提携 40 周年をともに祝福できることを大変うれしく思う。この 40 年間の関係において、さまざまな分野の方々が関わっている。ビジネス、医療技術、新規事業、教育、観光、都市計画の部門である。こういった部門で精力的な活動が行われてきた。



このような協力関係は 2 つの都市の姉妹関係の命綱であり、強味にもなっている。さらに今後につなげていく将来の基盤でもある。両市の素晴らしい都市計画であるとか経済及び文化は、両市が最も住みやすい街に選ばれる理由につながっている。吉村市長を 24 時間だけではあるが、メルボルンでお迎えできたことは大変喜ばしいことであった。また辻市会副議長には素晴らしい代表団を率いていただき、改めてお礼を申しあげる。

まずは 2025 年の万博開催地に大阪市が選ばれたことをお祝い申し上げる。私どもも参加している B P C（ビジネスパートナーシティ）のネットワークもどんどん成長していると聞いている。ビジネスの機会がどんどん広がっているが、そのたびにこの 40 年間の長い関係に感謝する。

私自身、今回の代表団との交流を通じて 3 つ重要なことを感じた。大阪～メルボルンの直行便が必要だということ、本田圭祐という日本のスーパースターがメルボルンビクトリーの選手であるということ、来年大阪を訪れるまでに日本語の発音を上手にしなければいけないということ。

私たちはこの関係に大変感謝の念を持っている。そしてこの関係をこれからも継続していくためにさらなる力を尽くしていきたいと思っている。

【松永一義 総領事 挨拶要旨】

昨年 5 月に着任してから学んだことは、メルボルンの方と親しくなる近道は 1956 年のメルボルンオリンピックで開業となった M C G（メルボルンクリケットグラウンド）で A F L（オーストラリアフットボールリーグ）を観ることである。私はエッフェロースのファンであるが、今日は特別リッチモンドタイガースに敬意を表したい。なぜなら大阪には別のタイガースが存在するからである。



とりわけメルボルンは文化の多様性がある都市として知られており、200 カ国以上

の国から来た方が 150 の異なる言葉を話し、それぞれが調和を保ちながら暮らしている。その多文化都市の中心にあるのが M C G である。しかし私にとっての M C G は、M が多文化主義（multiculturalism）、C が利便性（convienience）、G が寛容性（generosity）である。

現在、外国人の受け入れに門戸を開きつつある日本は、違いを受け入れるメルボルンから多くのことを学ばなければならない。一方で、日本は地域の多様性に富んでいて、それぞれの地域が独自の文化を持っており、その中でも特に大阪はユニークである。例えば、東京生まれ東京育ちの私にとって関西弁をマスターすることは容易ではない。大阪は千利休を生み出した街だけに、豊かな食文化で有名である。たこ焼き、串カツ、お好み焼き、などなど大阪のソウルフードを言い出したら明日までかかる。

これまでお話しした通り、オーストラリアと日本における多様性は少し異なるが、大阪とメルボルンにはある共通性がある。両方がお笑いの文化を有する都市であるということである。私が忍者や侍の格好をしてもメルボルンの方は暖かく歓迎してくれる。大阪ではおばちゃんのコミュニケーション能力を侮ってはいけない。初対面であろうと日本語を話せなくても、おばちゃんは何十年も知り合いであるかのように話しかけてくる。そしていつでも人にあげられるよう飴ちゃんを持ち歩いている。

笑顔は人種や文化を超えて世界のさまざまな人を結び付ける。メルボルンと大阪の姉妹都市関係 40 周年は大きな節目である。ここまでこられたのもここにおられる皆様のようにお笑いのセンスとコミュニケーション能力を有しているからだと思う。

メルボルンと大阪の姉妹都市関係 40 周年を祝すとともに、両市の皆様が育む友好と協力の将来に向けて、実り多い関係が長きにわたり続くことを祈念する。

レセプションの中ごろには、辻市会副議長の挨拶にもあった「うどん」の製造過程についての説明があり、実際に「だし」と合わせた「うどん」が振舞われ、メルボルンの皆様に大阪の食文化を知っていただく良い機会となった。また大阪観光局から U S J 等のプロモーションも行われ、会場は盛り上がった。また、立食形式であったこともあり、会場の至るところで活発に観光ビジネスにかかわる意見交換が行われるなど、非常に有意義なレセプションとなった。



意見交換の様子